

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 103人 国語B 103人

② 数学A 103人 数学B 103人

5 留意事項

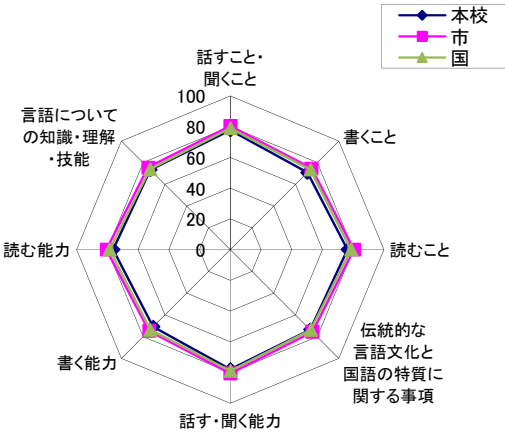
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

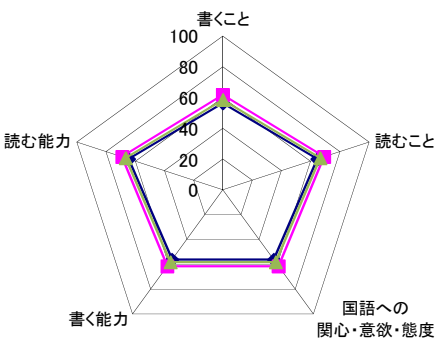
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.8	80.5	78.9
	書くこと	70.9	74.7	73.7
	読むこと	76.2	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.5	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.8	80.5	78.9
	書く能力	70.9	74.7	73.7
	読む能力	76.2	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	73.5	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	56.3	61.6	58.3
	読むこと	64.5	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	56.3	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	56.3	61.6	58.3
	読む能力	64.5	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

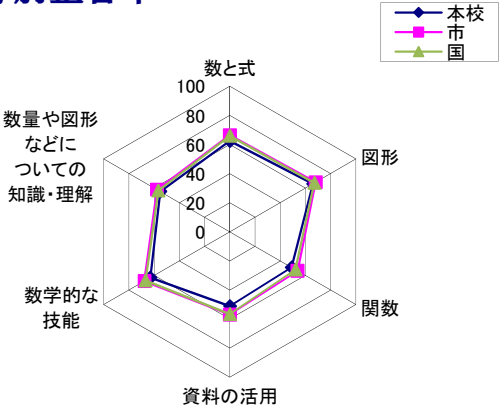
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●全体的な正答率は、市と全国平均を下回っている。 ○相手の反応を踏まえて話すこと、聞き手を意識して分かりやすい語句を選択する設問に関しては、全国の平均を上回った。 ●一方、話し合いの流れを踏まえて、自分の考えを広げる発問に関して、力不足が否めない。	●定期的に聞き取りテストを行っているが、聞き取るポイントを確認させるなど、実施する上での工夫を行なっていく。 ●話し合い活動を行なう際、根拠を挙げて話すよう指導したり、相手の話に対して質問したり確認したりするよう指導し、話す力・聞く力の伸張を図っていきたい。
書くこと	●全体的な正答率は、市と全国平均を下回っている。 ○質問に対する答えを表現するという設問に関しては、全国平均をやや上回った。 ●伝えたい事柄が相手に正確に伝わるように書くという設問に関して、全国平均を大きく下回ってしまった。 ●伝えたい事柄を根拠を明確にして書くことに関しては、正答率は全国平均と同等だったものの、極端に無回答率が高かった。	●授業中に、自分の意見を書く機会を増やし、そのなかで根拠をしっかりと示して書くよう指導していく。 ●正答率に全国平均との差がほとんど見られない設問においても、無回答率が高い場合が目立ったことから、子どもたちの間でも書く力に差があるように思われる。自分で文を作る機会を増やし、それごとに苦手としている生徒へ個別の支援を手厚くしていく必要がある。
読むこと	●全体的な正答率は、市と全国平均を下回っている。 ●文脈の中で語句の意味を理解したり、文章の展開に即して情報を整理して内容を捉える設問について、特に正答率に開きが見られた。	●本年度の状況から、文脈を捉え、情報を整理して文意を理解する力が不十分であることが考えられる。特に説明的文章の指導において、指示語の関係やレトリックについての理解ができるよう支援していく必要がある。 ●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の結果からも、語彙が不十分で理解が及ばないということが考えられる。今後、読書指導などを通して、語彙を増やす工夫を伝えていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●全体的な正答率は、市と全国平均を下回っている。 ○文脈に即して漢字を読む設問に関しては、全国平均を上回っており、正答率も充分満足できる状況である。 ●一方、漢字を書く問題に関しては充分といえない状況にある。	○漢字の読み書きについては、補助教材を利用し、家庭学習させている。一定の成果があったので、継続していく。 ●漢字を書くのが苦手というのはここ数年、同様の傾向が見られる。他教科とも連携し、漢字で書くことが望ましい語句についてはできる限り漢字で書かせる、ひらがなで書いているものは漢字で書き直させるなどの指導を徹底していきたい。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

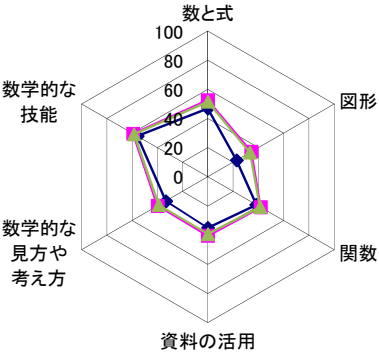
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	62.5	66.4	65.9
	図形	66.0	68.1	67.1
	関数	49.0	53.7	52.0
	資料の活用	51.0	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.1	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	55.2	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	46.9	52.7	51.5
	図形	22.8	34.5	33.3
	関数	38.4	41.9	41.4
	資料の活用	35.0	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	33.3	39.9	38.9
	数学的な技能	55.8	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○Aでは多項式の計算や一元一次方程式、連立方程式を解く問題に対しては全国平均を上回っている。 ●Aでは数量関係を文字式にしたり、比例式に表したりする問題が全国平均を下回っている。 ●Bでは事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する問題に関しての無回答率が高い。	○引き続き計算や方程式の解く問題を反復練習し、技能を高めていきたい。 ●問題を読み取る力や理由を説明する力をつけるために、授業の中で自ら考える発問や自力解決する問題の設定をしていきたい。また、苦手と感じる問題に対してチャレンジする気持ちを育てていきたい。
図形	●平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○Aでは三角形の合同条件や証明の必要性や意味を理解する問題に対しては無回答率は0であり、全国平均を上回っている。 ●Bでは筋道を立てて証明したり、付加した事柄を見出し、説明したりする考え方を問う問題に対しては全国平均を下回っている。	○覚えた既習事項を使う問題に対しては今まで通り基本的内容を定着する授業を展開していきたい。 ●図形の性質や条件を使って証明や説明したりする場面を多く取り入れた授業の工夫をしていきたい。常になぜなのかを考えさせる生徒主体の授業を考えていきたい。
関数	●平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○Aでは知識理解の観点の問題に対しては全国平均を上回っている。 ●Aでは表と式の関連づけや変域を求める問題は全国平均を下回っている。 ●Bでは事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する問題は全国平均を下回っている。	●2つの数量の関係から、表やグラフや式に表現したり、表やグラフから、数量の関係を読み取る力をつける問題を数多く取り入れていきたい。
資料の活用	●平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ●Aでの知識理解を観点を問う問題や、Bでの資料の傾向をとらえて処理し、数学的な表現を用いて説明する能力を問う問題の正答率は低い。	●度数分布表や相対度数、中央値など用語の学習は1年生の学習内容で、なかなか定着しないのが現状である。2・3年生の他の単元と関連付けて学習できるよう工夫していきたい。

宇都宮市立宝木中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○毎日、同じくらいの時刻に寝ていると回答した生徒の割合は84%で、県では5ポイント、全国では9ポイントも上回っている。また、毎日、同じくらいの時刻に起きている生徒も93.4%で、多くの生徒が規則正しい生活を心がけている。

○難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している生徒は82.1%で、県より8ポイント、全国より12ポイントとおおきく上回り、意欲的に取り組んでいる。

○学校で、友だちに会うのは楽しいと思っている生徒は96.3%、人が困っているときは、進んで助けている生徒は87.7%、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている生徒は99.0%と、県や全国を上回っており、友だちとの関係を良好にしていきたいという思いが感じられる。

○1、2年生のときに受けた授業では、グループ活動に関することには80%近くの生徒が意欲的に取り組んでおり、「分かる授業の推進」の1つとして取り組んでいる「話し合い活動の積極的な導入」の成果が表れている。

○国語や数学の学習は将来、社会に出たときに役に立つと思っている生徒は、県や全国を大きく上回り、授業にも意欲的に取り組んでいることが分かる。

●テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る生徒は90.5%と、県や全国を上回っているが、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒は66%と県より4ポイント低く、また、地域の行事に参加している生徒も30.1%と県より16ポイントも低い。地域で行われているボランティア活動への参加を呼びかけていきたい。

●400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思っている生徒が59.4%、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと思っている生徒が65.0%と、文章を苦手と感じている生徒が多く、授業における言語活動のさらなる充実が望まれる。